

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業  
領域開拓プログラム（研究テーマ公募型研究テーマ）  
評価用研究成果報告書

|        |        |  |        |       |  |
|--------|--------|--|--------|-------|--|
| 課題     |        | 情報メディア発展のもとでの新しい地域研究                             |        |       |  |
| 研究テーマ名 |        | 地域社会の災害レジリエンス強化に向けて－<br>SNSとクラウドGISを用いた共時空間型地域研究 |        |       |  |
| 研究代表者  | 所属機関   | 国立大学法人京都大学                                       |        |       |  |
|        | 部局     | 大学院アジア・アフリカ地域研究研究科                               |        |       |  |
|        | 役職     | 准教授  | 氏名     | 古澤 拓郎 |  |
| 委託研究費  |        | 単位：千円  |        |       |  |
| 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度   | 平成29年度 |       |  |
| 3, 212 | 2, 535 | 2, 915   | 3, 108 |       |  |

### 1. 研究の概要

研究目的、研究内容、成果や波及効果等、実施した研究の概要について、簡潔に記述してください。

本研究は、グローバル化の進展と情報通信技術（ICT）の著しい発展によりフィールドワークの優位性が低下しつつある「地域研究」というディシプリンに対し、その ICT を用いて新たな展開をもたらすための学際融合研究である。設定課題「情報メディア発展のもとでの新しい地域研究」に応じた本研究の目的は、スマートフォン、ソーシャルメディア（SNS）、クラウドシステムをフルに活用することにより、災害・生態系破壊・資源管理・伝統文化喪失といった現実的課題を解決へと導くこと、また、「共時空間型地域研究（Interactive Real-Time Area Studies）」と名付けたこの研究手法を展開発展させ、新たな人文社会系領域を先導することである。

**【研究方法・内容】**(1) インドネシアやソロモン諸島などにおいて様々な社会的・地域的課題を抱えた人々とスマートフォンや SNS を通じて繋がる、(2) そこから得られる情報を解析する技術を発達させる、(3) 共時空間型地域研究を行うためのスマートフォンアプリを開発・公開する、(4) この技術を広めていく。

**【成果】**Facebook 上に Smart ASRIS (Area Studies and Resilience Implementation using Smartphone) というコミュニティを形成。2015 年 11 月から徐々に拡大して、2017 年 6 月までに 126 件のスレッド（投稿＋コメント）が上がった。代表例として、[A]エルニーニョ南方遷移現象下におけるサバナ気候で農耕のサイクル（Facebook＋衛星画像解析）と雨季・乾季（Facebook）の関係性を把握することができたこと、[B]民族誌研究で報告のなかった大規模伝統儀礼が Facebook 上で記録されたこと、[C]情報から隔離された島嶼部における気候変動影響や災害・事故事案を把握することができたこと、が挙げられる。一方、SNS 上でのいわゆる「フェイクニュース」問題に対応して、真の情報にたどり着くためのベイズ理論やカルチュラルコンセンサスモデルという数理モデルを人文社会系に導入するための研究を行った。また、国際援助機関や民間企業とも積極的に意見交換を行い、社会的要求に応える研究を検討した。これらを統合する形で、スマートフォンアプリ「LOCOPAS」を、複数言語・複数 OS 対応で開発・無料公開し、「いつ・どこで・何が」起こったかを迅速に記録し、SNS などを通じて現状や支援の必要を共有・拡散できるようにした。

この取り組みは、一般向け書籍やウェブ・SNS を通じて発信し、国際ワークショップも開催して情報交換と普及に努め、学生実習にも取り入れた。今後は共時空間型地域研究がさらに広い分野で導入され、実社会にも貢献できるようになることと、地域研究の中でもテロや感染症など社会状況あるいは家庭事情等によりフィールドワークに頼ることができない研究者でも、新たな研究を行うことができるよう領域が拡大されることを目指す。